

交流のひろば

おたより コーナー

「声の広報」の 発送に携わって

大利根町二丁目 山田 昌枝 63

市の研修会館で、「広報まえばし」のダビングボランティアに携わって二年が経ちます。

この活動は、前橋婦人ボランティアの会が、目の不自由な人たちへ市の情報を届けたいという思いから始めたそうです。それから既に二十

まちのニュース NEWS

もちつきで 住民の和が

元総社町78

十二月十五日、元総社町七八自治会では、区民会館でもちつき大会を行いました。二十八年も続く伝統の行事です。この日は、子どもを中心に、地域の住民が多数参加しました。

用意されたもち米は三十

数年の歴史を重ねています。

ダビングの作業は、月二回。利用者から前号のテープが百二十本ほど返送されてきます。そのテープを再利用。二台の機械を使い、朗読を担当するボランティアさんが吹き込んだ、新たな情報をダビングします。そしてすべてのテープに音は確実に入っているかなどのチェックをして利用者へ発送。二人一組での作業になりますが、集中しながらも楽しんでやっています。

新しく総合福祉会館も建設され、声の広報のダビングもこちらで行うこととなります。情報社会の現在、このテープが、目の不自由な人たちの前橋の情報源としてお役に立てれば、という思いを胸に、心機一転、これからも頑張りたいです。

大人に混ざり、子どもも交代で、三人ずつもちつきに挑戦しました。もちをつくタイミングが難しく、お互いのきねがぶつかることも。しかし悪戦苦闘しながらついたもちは格別。食べやすい大きさに丸め、あんこやきなこ、大根おろしとからめて、おいしそうにほお張っていました。

治田喜一同自治会長は、「昔ながらの行事を行い、コミュニケーションを図ることで、住民の和が生まれま

す。昔からの住民にも、新しく引越してきた人にも、同じように接すること、みんな仲良くなれるんですよ」と話していました。



まえばしの動物植物 ③4



オオタカ

市自然環境保全推進委員

木村 誠

ほぼ日本各地に生息しています。全長は五十〜五十六で、翼を広げた大きさは百十〜百三十。雌の方が大型です。頭部や背、翼の上面、尾は暗青灰色。尾に四本の黒い帯があります。顔には眉状の白い斑と目を囲む黒い線があり、黄色の鋭い目の特徴。体の下面には白地に黒く細かい横斑があります。

狩りの名手 として知られ、タカ狩りの主役でした。最近、市街地でも姿が見られるようになったのは、エサになるハトやムクドリが増えているからだといわれています。しかし、実際の数は減っています。今後とも保護が必要です。